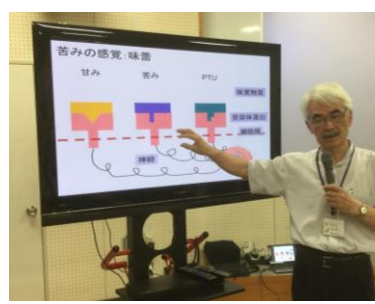
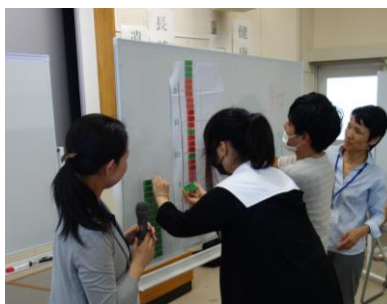


2019年9月6日 長崎県立大村高等学校 健康教育講話

長崎県立大村高等学校(定時制)の健康教育講話「多様性と唯一性(みんな違ってみんないい)」のテーマを頂き、全校生徒と先生方約60名と小学生用プログラムを高校生用にアレンジした学習を行いました。長崎県内の学校からの依頼で講座を行うことは初めてです。また、小学生用プログラムは大人でも楽しめ、これまでも部分的に小学生以外の皆さんの学習教材にした経験はありますが、今回のように全員が高校生を対象で「PTUの味」、「特徴探し」、「遺伝の木」、「特徴ゲーム」を通して実施するのは初めての取り組みでした。高校生の反応をイメージしながらプログラムを改変しました。

大きな変更点は2つです。まず、「特徴探し」で、これまでの方法は男女1名ずつみんなの前に立ってもらい、2人の「同じところ」、「違うところ」を発表してもらうものですが、今回は、芸能人の写真を使用して個人ワークをしました。

もう1つは、まとめの内容を高校生向けにしたことです。小学生向けでは学習のおさらいとして、プログラムで体験したことの意味づけをしていきますが、今回は、“1人1人の身体でどんなことが起こっているのか”という遺伝学的根拠を加えたミニ講義でまとめました。



少し照れくさそうにしながら発表してくれたり、ちょっと授業と離れた話をしつつ、生徒さん1人1人の反応を見ながら一緒に特徴を観察する時間はとても楽しく、新しい感覚を教えてもらいました。感想には「楽しかった」「みんな同じではないけれど、同じところもあるとわかった」「親から受け継いだ一つの命を大切にしたい」「1人1人違う特徴があって、それが大切だと思った」などがありました。いつも学校の学習と違った形で行ったこの授業は、本当にいろんな反応がありましたが、最後まで参加してくれたのは、生徒さんそれぞれに心に残る何かがあったのだと、感想を読んで強く感じました。対象となる方の背景を考えながらプログラムを作っていくことの大切さを改めて学んだ貴重な機会となりました。

鶴田校長先生、川上教頭先生、コーディネートして下さった養護教諭 古川先生に、深く感謝いたします。
文責：森藤香奈子 (2019年9月9日)